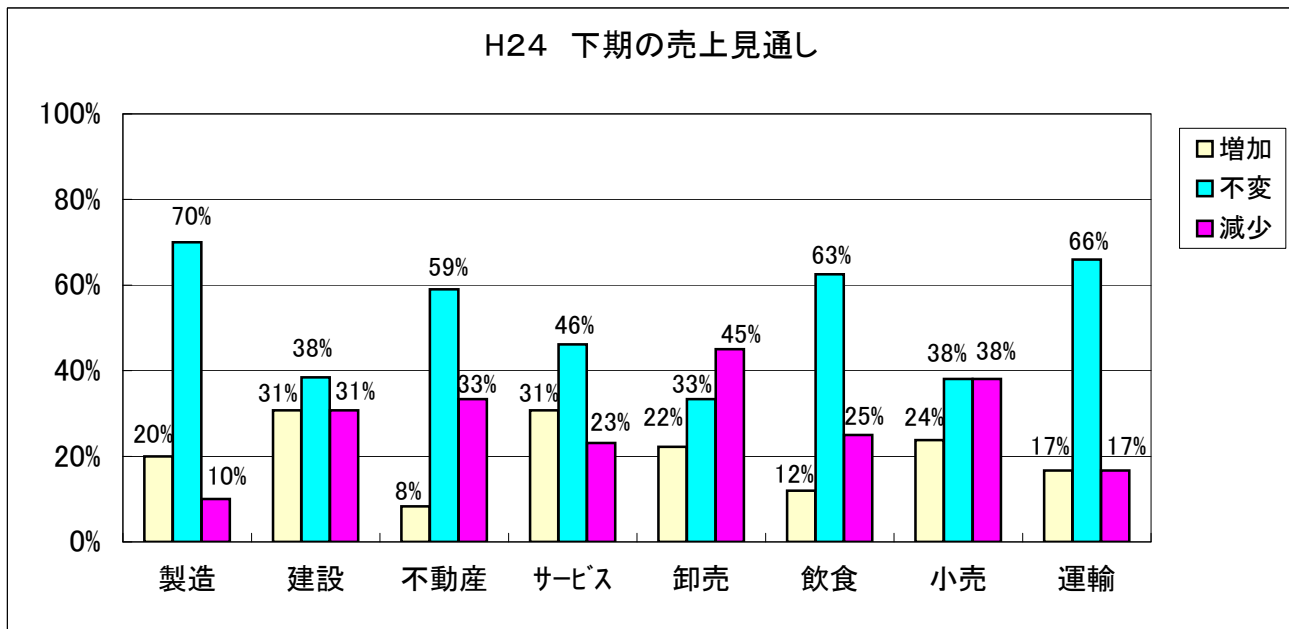


調査2 平成24年1月～6月を水準とした平成24年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに前頁で表示してあるのでここでは省略する。

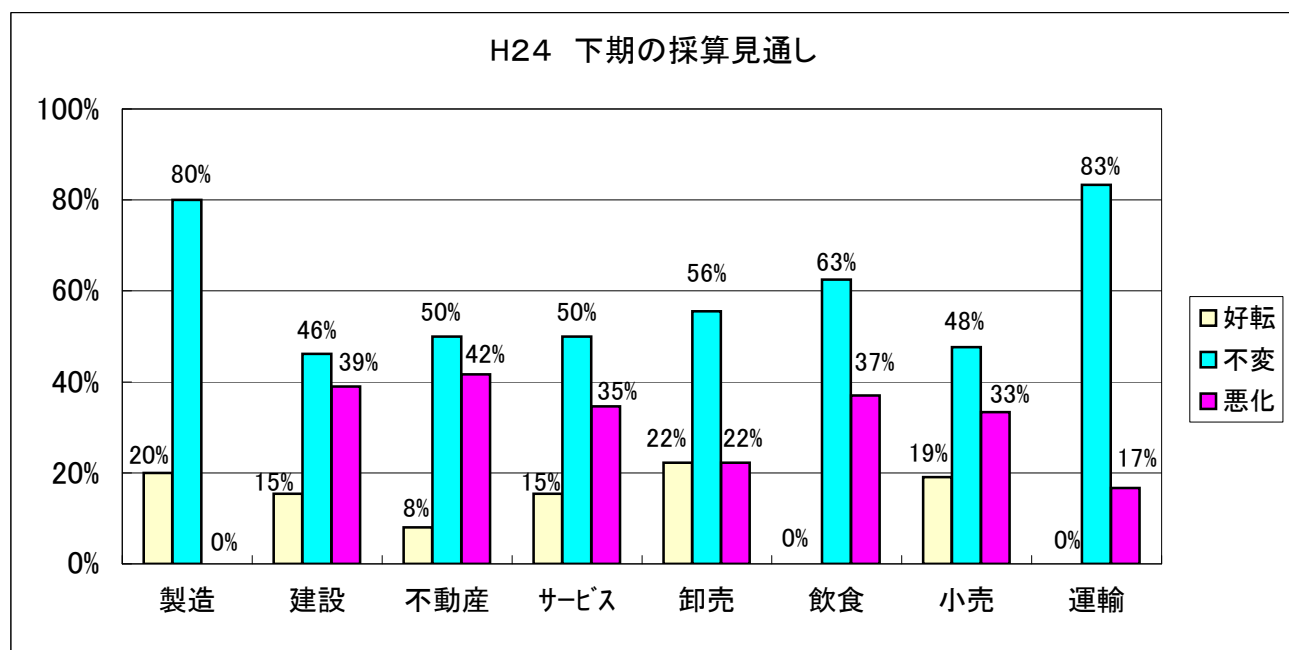
①売上見通し

全体で見ると「増加」21%（前回22%）、「不変」52%（前回44%）、「減少」27%（前回34%）となった。業種別で見ると「増加」する見通しと回答したのは、建設業とサービス業がともに31%で一番多かった。方、「減少」の見通しが多い業種は、卸売業45%、小売業38%、不動産業33%となっており、厳しい見通しとなっている。



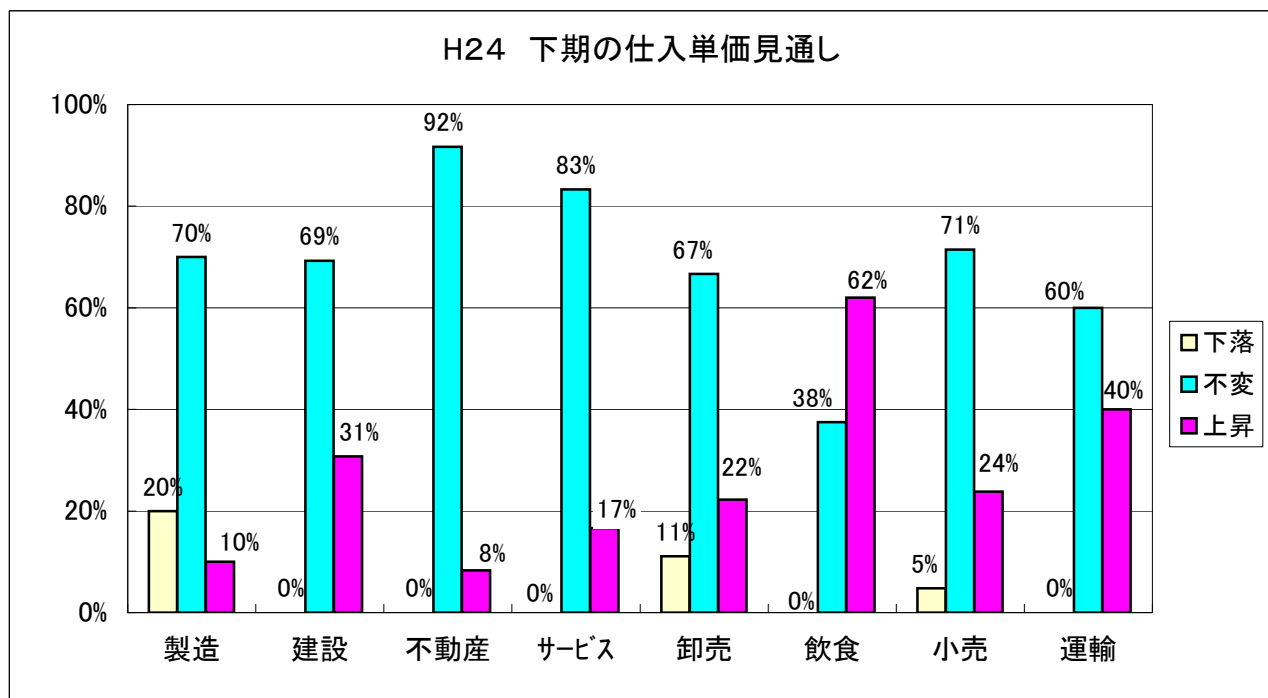
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が12%、「不変」が60%、「悪化」が28%となった。業種別では、製造業が「好転」20%、「不変」80%となり「悪化」の回答はなかった。「悪化」の見通しが強いののは、不動産業42%、建設業39%、飲食業37%となっている。



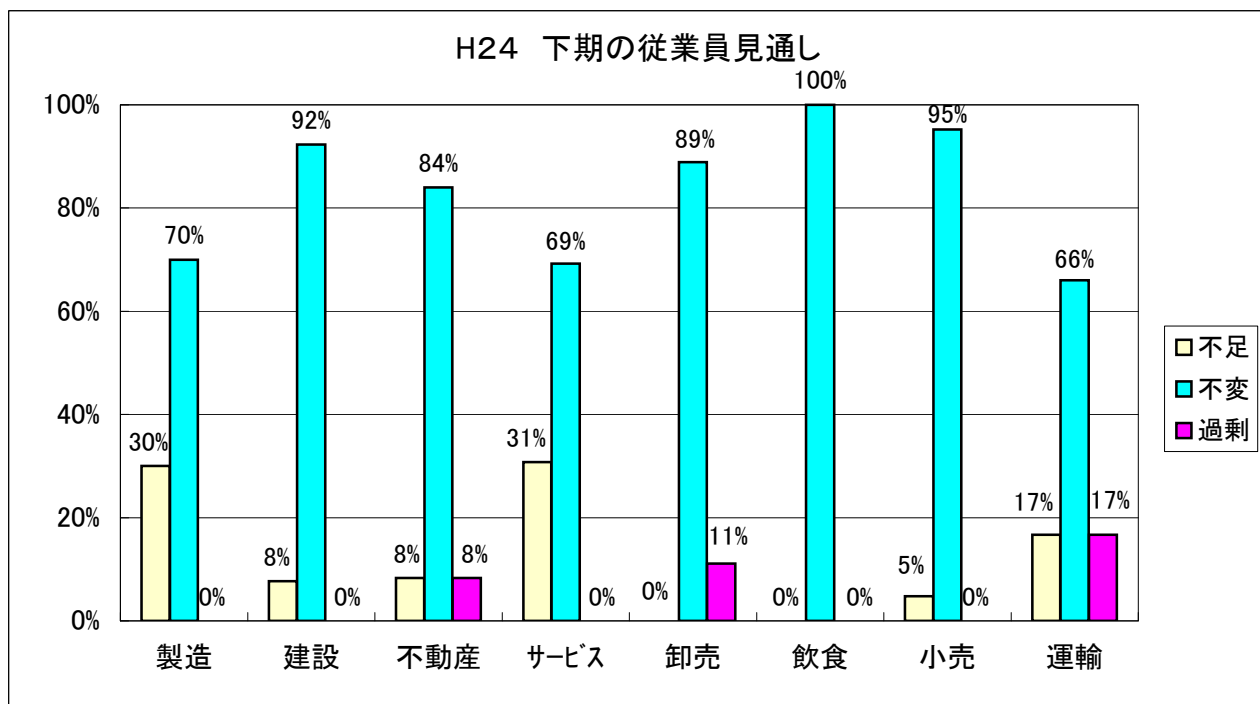
③仕入単価の見通し

仕入単価については、全体で見ると69%が「不変」と回答しているなか、「上昇」の見通しが多い業種は、飲食業が前回調査同様に62%（前回75%）と突出している。



④従業員の見通し

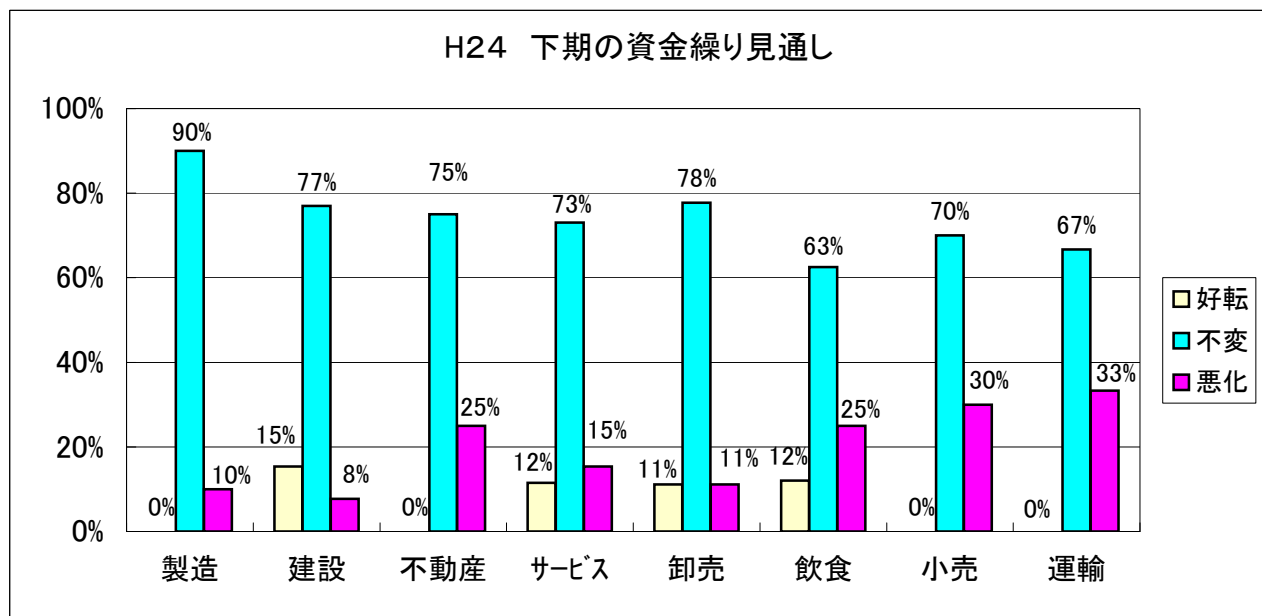
全体で見ると83%が「不変」と回答している。そのなかで、「不足」と「過剰」を比較してみると、「不足」が顕著なのがサービス業31%、製造業30%であった。



⑤業界の景気動向見通しについて
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りについては、「不変」が全体で74%で大きな変化はない。「悪化」の見通しが多かったのは運輸業33%、小売業30%、飲食業25%、不動産業25%であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

融資状況の見通しが「不変」と回答したのは全体で63%、「融資なし」が23%、「厳しい」が11%、「緩やか」が3%となった。業種でみると「厳しい」が多いのは運輸業33%であった。

